

## 2023年11月 診療カレンダー

住所:東京都中央区日本橋大伝馬町13-8

メディカルプライム日本橋小伝馬町3階

TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

## 2023年12月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

インフルエンザ  
予防接種  
受付中です  
健康診断  
実施中



新しい  
予約システム

18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30

これは彼の絵画を完成できないという特徴と同じで、彼にははものごとを完成できないという何らかの残念な欠陥、発達障害のような特性があったことは確実だと思われます。

私がお手稿の中で最も興味を持ったのが、解剖学についてです。レオナルドが解剖学に目覚めたきっかけは人間や動物の精密な描写のためでしたが、次第に人体の機能そのものに興味移っていき、心臓・血管・子宮など絵画の描写とは無関係な臓器のはたらきについても詳細なメモが残されています。100歳の老人の解剖の際には血管に動脈硬化の所見も記載されており、これは人類史上、動脈硬化発生のメカニズムについて初めて記したものとされています。さらに興味深いことに彼は心臓から大動脈へ出ていく部位(バルサルバ洞)について、渦巻状の血流が生じそれによって大動脈弁が閉じることを解明しています。この現象は彼が軍事技師として水路について研究した流体力学から導き出されたと考えられています。バルサルバ洞自体、レオナルドの約200年後に発見されたもので、大動脈弁が閉じるメカニズムにいたっては1960年代になってレオナルドの研究が正しいことが初めて明らかにされました。レオナルドの信じていたほどの先見性には驚くほかにありません。

彼はこのように真理の追求に執念を燃やしていましたので、未完成の絵画「荒野の聖ヒエロニムス」の胸鎖乳突筋の描写について解剖学の研究を経て30年ほど後に未完成の下書きをわざわざ修正して描き直しているそうです。彼が正しい描写を心がけたというのは、人体に限らず、光や植物、鉱物までも精密にスケッチしており、レオナルドの絵画が真作か否かを見分ける点で大きなヒントになります。『レオナルド・ダ・ヴィンチ』では、2017年に史上最高額の4億ドル(約510億円)で落札された「サルバトーレ・ムンディ」のキリストの目の描写が不正確であること、手に持つ水晶の光が不自然な屈折であることを指摘しつつも、レオナルドの真作として決定づけており、そこは自分としては疑問に残りました。彼の「手稿」については現在でも解明が進められており、今後も新たな発見があるかもしれません。

500年前の人間が独学でここまでの域に到達したのは奇跡に近く、パトロン(保護者)の保護下、本当に恵まれた環境にいて絵画の制作や、興味のあるものを自由にとことん研究できたからこそ可能だったのかもしれませんが。

皆さんも興味がありましたら、ウォルター・アイザックソンの『レオナルド・ダ・ヴィンチ』を手にとってみてください。また、史上最高額がつけられた絵画「サルバトーレ・ムンディ」の取引の裏側については、ドキュメンタリー映画『ダ・ヴィンチは誰に微笑む』(2021年公開)でどうぞご覧ください。

文責 齋藤 幹

## 「今月の言葉」

芸術に決して完成ということはない  
途中で見切りをつけたものがあるだけだ  
～レオナルド・ダ・ヴィンチ～

## お知らせ

- ・インフルエンザ予防接種開始しています！
- ・予約システムが変更になりました。しばらくご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします

## レオナルド・ダ・ヴィンチ

先日、近所の図書館でたまたま手に取ったウォルター・アイザックソンの執筆した『レオナルド・ダ・ヴィンチ(上)(下)』(文芸春秋)を無我夢中で読み終えて以来、すっかりダ・ヴィンチにはまっています。

世界で最も有名な絵画「モナリザ」、その製作者であるレオナルド・ダ・ヴィンチを知らない人はいないと思いますが、彼の生涯について興味がある人はさほど多くはないかもしれません。ダ・ヴィンチは絵画を“完成させない”ことで知られ、現残する“完成された”絵画はわずか15～20点ほど。私は幸いにも展覧会などで「モナリザ」をはじめダ・ヴィンチの本物の絵を鑑賞する機会があり、その素晴らしさは理解できるものの他の偉大な画家と比較したとき、どこがどう突出して優れているのかは、正直よくわかりませんでした。

同時代のミケランジェロは、彫刻から絵画、そして有名なシステナ礼拝堂の壁画など数多くの大傑作を残しており、私はどちらかというと芸術家肌で飽きっぽい人間よりは勤勉な職人気質な人物を好ましく感じて、ダ・ヴィンチよりはミケランジェロのほうがいいなあと思っていました。当時、ダ・ヴィンチとミケランジェロは仲が悪かったようで、ミケランジェロは絵画を完成させないダ・ヴィンチのことを詐欺師と軽蔑していたようです(笑)。

『レオナルド・ダ・ヴィンチ』によるとミケランジェロは孤独でやや武骨なタイプ、一方のレオナルドはスマートで美男子、ファッションも最先端で、周りにはいつも人が集まっていた、いわゆる“人たらし”だったようです。実際、彼は初期のミラノ公のルドヴィーコ・スフォルツァをはじめ、様々なパトロンに手厚い保護を受けながら、画家としてだけでなく、軍事技師、建築家、宮廷での演出プロデューサーなど幅広い分野に才能を開花させていきました。

レオナルドは解剖学や物理学、天文学などで多くの発見をし、ヘリコプター、戦車、自転車等を発明したと言われています。それらはすべて『手稿』と言われる約40年に渡って書き綴ったノートに記されています。現存している手稿は7200ページほどありますが、実際にはその4倍のノートが存在したそうです。残念ながら生前にまとめて出版されたものは1冊もなく、彼の先見性が後の世に影響を及ぼすことはありませんでした。